

宇部市文化振興まちづくり審議会 概要

日 時：令和 4 年(2022 年)10 月 11 日(火) 13:30～14:55

場 所：市役所 3 階会議室(防災情報センター)

出席者：委員 9 人(欠席 1 人)

事務局：篠崎市長

観光スポーツ文化部：富田部長、安光次長、庄賀参事

文化振興課：田中課長、小林主幹、竹内副課長、上田文化振興係長

1 任命書交付

2 市長挨拶

3 委員及び事務局紹介

4 会長及び副会長の選出

会長、副会長の選出について委員に諮ったところ、委員より事務局案の提示を求められた。事務局が、会長に福田委員、副会長に真鍋委員を提示し、審議会規則第 2 条第 1 項の規定により選出した。

5 議 事

(1) 「文化振興ビジョン(第三次)」について

文化振興ビジョン(第三次)概要について、事務局より説明。

(2) 意見交換

(会長) 皆様からのご質問、ご意見を頂きたい。

(委員) 文化財にも色々定義があると思うが、宇部市は、桃色レンガも文化財だと私は思っている。桃色レンガなどが、取り壊されてきている。取り壊されたら、元に戻らないので、レンガも文化財だという風に考えて、早めに残すことを提案した方がいいと思う。

(委員) エヴァンゲリオンの映画監督が宇部市出身で、宇部線を走る電車が、エヴァンゲリオンの塗装をされているのを大学で聞いて初めて知った。私たちの周りの人たちはまだ知らない人も多いかと思う。せっかく宇部線をエヴァンゲリオンの塗装にしたなら、もっと発信していくべきと感じる。

(会長) 文化は身近にあるもので境界があいまい。文化に我々は日常的に親しんでいるもの。ビジョン策定の際、文化に触れるということは、わざわざ渡辺翁記念会館に行って見ただけではなく、映画を見たり、文化に触れることはたくさんあるので、それを意識した方がいいという話もでた。文化が振興していくというのは、文化に触れる機会が増えていき、その人の人生が豊かになることが一番の目的だと思う。文化を「享受する」のと「参加する」のと両方あるが、必ずしも皆が参加できる機会があったり余裕があったりということではないので、両方含めてこの審議会では考えていきたい。

(委員) 最近、「大人が文化に触れるようなきっかけを作ることが大事」ではと思う。宇部市の彫刻に触れて、文化の奥深さに感動した。宇部市にこんな良いものがあることを広めたいなど思っている。私が学生のとときに奥深さにもっと触れていたら、色んな方向性があったのではと思う。学生がもっと、小学校の授業みたいに強制的に触れるような場があればと思う。興味がないと色々行く機会がないから、そこがカギではないかと思っている。

(会長) 確かに『自熟の時』という言葉があり、自分が熟してないと同じものを見ても心に響かないこともある。歳をとっていても別の見方をして深くなっていくというそういう考え方もある。どこで接するかですよね。小学生の時に無理やり見せられて、それが良かった場合もあるし、それで嫌な場合もあるから、難しいですが、若い人に触れて頂くことはそこか

ら先の広がりがあるだろうと思う。

(委員) 学会を開くために相談したことがあるが、学会など1年前から施設を必要とするものもある。渡辺翁記念会館、文化会館は宇部を代表とする文化施設で、建物を保存する一方で、予約時期など中身を柔軟に運用していくことで、活性化につながると思う。

(会長) この2年間は、あまり参考にはならない。目標値もコロナ前の2019年度を基準に考えておられるし、インバウンドがだいぶ緩くなって、観光プラス文化振興ということで、動きが出てくるのではないかと思う。もう少し色んなことで緩やかになっていく気がする。

(委員) 市外での集まりで講演会があったときに講談を聞いた。自分から聞く機会がなかったので、貴重な経験になった。宇部市で大きい講演など、どんどん入れて行ってほしい。文化だけだと子供はなかなか見ない気がする。祭りとか芸能と文化がセットになるような仕組み作りができれば、若い人たちにも繋げていけるのではと思う。

(会長) 宇部まつりみたいな時でも何らか文化的なものに触れているように、遊びながらも多くの人に文化に触れてほしい。文化は敷居が高いものじゃなくて、触れやすいものと考えていく。

(委員) 文化というのは、お金がかかる部分がある。第3次ビジョンは、全般的にどのくらいの感覚、感じで臨むことになってるのかということが気になった。

(事務局) コロナ禍でなかなか今までしてきたことができなかった部分がある。去年は100周年ということで特別な事業もあった

し、今年はビエンナーレの開催もある。来年度からは持続可能な文化にしていかなければいけないと考えている。コロナ禍を体験したみなさんの考え方も変わってきていると思うので、新たな形を考えていく。

(事務局) コロナでだいぶ活動が小さくなったが、目標としては、来年度からコロナ前の状況に活動を上げていこうと考えている。来年度は、昨年度よりは予算をしっかりと取っていききたい。もう一つは、ビジョンの説明の中にもあった通り、文化会館、渡辺翁記念会館、この改修が間近に迫っている。こちらも相当な金額になる。二つでおそらく数十億になる可能性がある。今から設計をして、年度ごとにどう分けて工事をやり切るかを考えながら進めていきたい。特に記念会館については、国の重要文化財になっており、簡単な耐震補強等ではなくなると思う。文化庁と協議をしながら最適な方法を考えていく。文化会館の工事が終わり、その後に渡辺翁記念会館になる。その辺の大きなスケジュールをしっかりと立てていこうと考えている。

(委員) 改修工事の時は、全く使えないのですか？

(事務局) 両方が使えないというような状態にならないようにしていきたい。

(委員) 文化連盟は、高齢化し、団体数の活動がだんだん少なくなった。若い人が文化活動と言われる色々な芸事とか、お茶、お花などに触れ合うのがすごく少なくなってきた。若い人の興味がなくなってきたということが非常に大きいのではないかと思う。多様化が広がってきて、文化活動の方は疎かになってきたということがあるのではないかと思う。皆さんに興味を持ってもらうような政策を考えたら、少しは取り戻せるのではないかと感じている。

(会長) 若い人は何が面白いのでしょうか。

(委員) 最近は、みんな、スマホ片手に過ごしている。

(会長) 文化会館で能と狂言を久しぶりに生で見た。見渡したら、私と同じくらいの人ばかりだったが、見るタイミングもあるとも思う。気持ちはとても良くなったが、そういうイベントやコンサートをしようと思っても、入場者を集めることも大変で、文化を推進するにはお金も掛かる。でも、この会で議論する文化施策は、多様な文化を多くの人を楽しんで、それぞれの方法で心豊かになってもらうものを協議していけばいいなと思う。ビジョンに沿って、これから色んなことを審議していくが、皆さん方の日頃思っているようなこと、思いついたことや考えたことを出して頂くと有難い。具体的に文化創造財団もありますから、色んなことで宇部をアピールするような文化活動を、企画や提言をして頂きたい。

(委員) 文化会館、記念会館を活用して、様々なコンサートなどを行っているが、公立の施設というのは教育施設であり福祉施設であるのではないかと思う。そこにプラスして、経済活動の施設としての役割があると思う。会館の活動だけでなく、小学校に講師と出向き、専門家から直接指導を受ける子ども文化夢教室も行っている。

(会長) 文化の振興には、教育が半分は関わっていて、10、20年先に子供達が大人になった時に、思い出すこともあるのではと思う。授業や学校行事で見たものというのは、その時は何か違和感あっても記憶に残れば、その後の人生に役に立つことがあると思う。

委員の皆さんが、ビジョンで色々な事を思ったり考えたりしたことや日頃思いついたことなどのご意見があれば、次の会議や

事務局に出していただくと有難い。

(事務局) 次回の審議会につきましては、決まり次第、またご連絡をさせて頂く。